

竹原崇雄著

## 『三島由紀夫 仮面の告白の世界』

『仮面の告白』は三島二十四歳の時の作品。真実を覆い隠す「仮面」と、すべてを露わにする「告白」という相対立する語を結びつけた標題が表す「背理」の世界の美を描いた作品である。この自伝的体裁を装うた性をテーマにした物語は、男でありながら男に興味を示すという、非常識的な性の衝動を矛盾の中に実在する美としてとらえたものであった。後年の代表作『金閣寺』・『豊饒の海』へと連なる主題はすでにこの初期作品においてその姿を見せている。

「小説らしくない小説」との評があるように、通俗的な面白みはないかもしれないが、三島独特の構図によるその小説の世界は、華麗な文体と相俟って、奇妙な魅力で読者を誘っていく。その「魅力」の本質を、一つ一つ単年に文章を分析しながら追求したのが本書である。絢爛たる三島の文章は一見難解に見える。しかし、その世界を紡いでいる糸口さえ見出だせば、容易に解明できるものである。緻密に組み合わせられているだけに、解明の手順さえ誤らなけ

れば、正確に読む解くことが可能である。批評や評論は解釈を基礎にしなければならぬ。本書はその基礎的な読みを試みたものである。

(風間書房刊・二三二頁・二六七八円)